

校長室だより



令和3年11月17日
校長 齋藤 瑞穂

「自立」と「自律」 ～移動教室の3日間をふりかえって～

今週は弓ヶ浜移動教室の様子をお知らせします。

第1日 7時前に学校へ集合し、クラスごとに全部で4台のバスに乗って出発です。弓ヶ浜移動教室は、静岡県南伊豆町にある杉並区の施設「弓ヶ浜クラブ」で行われます。途中どこにもよらずに行つたとしても、片道で5時間以上の道のりです。



幸い、これ以上ないほどよい天気に恵まれ、車窓から美しい富士山が見えました。

最初の見学地は三津シーパラダイス。渋滞もあり、ここまですでに3時間半のバス旅でしたが、ちょうどショーが始まったタイミングだったので、5・6年生は疲れも見せず熱心にショーに見入っていました。



続いて下田の町を歩きました。江戸時代から明治時代へと日本が大きく変化するきっかけの一つ、1954年の日米和親条約で開かれた港は2つあり、その1つが下田港です。条約の細かい話し合いの場となった了仙寺にも寄りました。幕末の歴史の舞台となった町で、5・6年生はどんなことを考えたかな？



弓ヶ浜クラブ到着です。お世話になる施設の方にごあいさつして、いざ入館。夜になって雨が降り、お風呂と夕食の後に予定されていたナイトハイクは残念ながら中止になりましたが、そのかわりに「杉七小弓ヶ浜句会」が行われました。



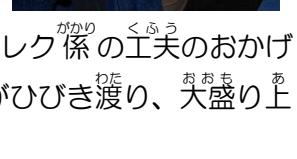
第2日 朝6時に起き、宿舎の目の前の弓ヶ浜で朝会です。東京ピクトリーで体を自覚めさせました。



この日は午前中にハイキングとサンドスキー、午後は海の生き物のお話を聞いたりフォトフレームを作ったり、ハーバーミュージアムを見学したり…盛りだくさんの内容でした。



そして夜はお待ちかねのレクリエーション！肝試しです。くじ引きでペアを作り、暗くした館内を回ります。おどかし役のレク係の工夫のおかげでしょう、館内には悲鳴がひびき渡り、大盛り上がりでした。



第3日 最終日です。「来た時よりもきれいにして帰ろう」というめあての下、次に来る人とのことを考えて、布団の始末や部屋の掃除を協力していねいに行いました。ここでは家での経験がものを言いました。ふだんから布団の上げ下げをしたり自分の荷物を自分で整えたりすることが当たり前にできる人と、毎朝お家の方があれこれお世話をしてくれているのだろうな、という人とでは、動きがまったくちがいました。



「自分のことは自分でです」…簡単なようでもむずかしいものです。今回、班の友達に助けてもらったな、迷惑をかけてしまったなと思う人は、あらためて自分のいつもの生活をふりかえり、自分で自分ができる(=自立)ようにしていってほしいと願っています。そして、集団行動ではいつでも自分がしたいことを優先できるわけではなく、時には自分の気持ちをコントロールして集団に迷惑をかけないようにする(=自律)ことも大切だということをしっかりと胸にきざんでほしいです。



最後の見学地、シャボテン公園では、5・6年いっしょの行動班ごとに、広い園内を巡りました。いろいろな種類のサルや鳥、そうそうアルパカもいましたよ。吹く風は少し冷たかったけれど、



みんなで食べたソフトクリームは格別の味だったことでしょう。



保護者の皆様

2年ぶりの移動教室は、さまざまなハプニングもありながら、移動教室ならではの学びをたくさん得ることができた3日間でした。子どもたち一人一人の心に、美しい海や富士山の姿とともに、仲間と協力して過ごした思い出が深く刻まれたことでしょう。朝早くからのお見送り、また予定よりだいぶ遅れましたがたくさんのお迎えをいただき、ありがとうございました。

帰りも渋滞があり、学校へ戻ってきたのはすっかり暗くなつた5時すぎでした。大きな荷物とおみやげをもって、迎えに来てくださったお家の方へ元気に「ただいま」のあいさつです。あつという間の3日間でしたが、思い出はたくさん！お家ではみやげ話の花が咲いたことでしょう。



お七小弓ヶ浜句会より

《校長賞》

さあトドくん 夢をいだいて 書いていこう
5年 大岩 理央さん
イルカのショー 遠くからの 水しぶき
6年 澤口 翔太さん



《ユーモア賞》

8時ごろ 行ったのは ナイト俳句
6年 丸茂 優太さん

今回は弓ヶ浜移動教室1日の晩に行つた句会の優秀作を紹介します。季語にこだわらなくてよいという条件で作ったので、選ばれた3作とも川柳になりました。

優秀作は2つとも三津シーパラダイスのショーの様子を詠んでいます。大岩さんの作品は、ショーを観た人にはわかりますね。トドの見せ場の直前にアシカが「夢」と書いたことを受けて、トドくんもがんばって、というエールでしょうか。澤口さんは見事なイルカのジャンプの迫力と、その後上がった水しぶきの瞬間をとらえています。そしてユーモア賞の丸茂さん。中止になってしまったナイト「ハイク」と句会の「俳句」をかけた、技ありの作品でした。

